

平成26年度 栄村ふるさと復興支援金事業総括書

申請集落等名 小滝

代表者名 小滝区長 中澤 強

事業名	震災施設再生活用による小滝米拠点施設整備と小滝米販売促進
事業区分	・産業振興及び雇用拡大に関する事業 ・その他集落の復興・発展に資する事業
事業タイプ	ソフト&ハード
事業実施期間	平成26年9月20日 から 平成27年3月10日 まで

1 事業内容

① 自己評価(事業実施率)	A
---------------	---

○震災施設の再生活用による小滝米拠点施設整備  
集落の復興計画で集落の存続・営みの核に田んぼの維持と小滝米を位置付けている。その小滝米の育苗作業から商品化販売までの拠点施設として被災施設を再生させるものである。

○「小滝米」のブランド化、販売促進  
小滝集落の米は、「低農薬」、「低化学肥料」、「有機肥料」を実践しており、美味さでは高い評価を得ている「安心、安全な美味しい付加価値の高い米」である。ブランド化を図り独自販売を進め、経営できる稲作ができるための販路開拓活動を展開していく。



2 事業効果

② 自己評価(事業効果)	A
--------------	---

小滝米の拠点施設ができたことにより機械設備の適切な保管管理ができるようになった。育苗作業も合理化でき省力化できるようになった。米倉庫も小滝米全量が保管できるようになり、低温管理ができるようになり品質維持ができる。保管から精米さらにブランド商品化を手掛けることができるようになり独自販売に向かって戦略的に進めることができるようになった。

全く知られていない小滝米を知らしめるための活動展開をしてきており、ブランド化に向かって確実に実績を上げてきている。多くの人と交流を広めることを大切にしているがこれらが栽培者の耕作意欲の高揚に良い影響を与えている。今後も小滝集落からは田んぼの耕作放棄はないであろう。

3 今後の取組み

小滝米の全量を独自販売していくことが集落の存続につながり真に復興であると考えている。そのために外部との交流を広めて小滝集落に人を引き込む活動展開をしていく。またホームページを公開したりしながら集落の情報発信を積極的に進めていく。その実弾に小滝米を位置付けながら引き続きブランド化販売促進活動を展開していく。

※ ①自己評価(事業実施率)欄は、「A」90%以上、「B」70~89%、「C」50~69%、「D」49%以下で示してください。

※ ②自己評価(事業効果)欄は、以下から選択してください。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある